

男と生まれ、女に生まれて誰しも結婚したいわけですが。でも対象者選りとなつてなかなかうまくいかないのが実態です。県でも一昨年から身障者結婚相談事業を連合会に委託され、お骨折りをいただいておりますが、矢張りこの問題は社会全体の中で皆さんにお力添えをいただかねばならんことだと思ひます。

松岡 私が世話しているところは、ほとんど生活保護世帯です。限られた保護費で生活をしなければならぬので、電気製品なども保有してほんどんど旧式で、なかには豆炭で暖をとっている人もいます。

保田 一つの事例ですが、夫が蒸発し残った妻が子供三人を抱えて生活しているわけですが。

苦しい生活の中で、何を切詰めるかとすれば、それは食費になりますね。そこで一般の人に比べて安い食費で生活しようと努力しています。着るものは人間の見栄があるものですから切詰められないわけですね。食生活は健康にかかわるので、食費をあまり切詰めることには問題がありますね。

松岡 そこらへんに原因があるのではないのでしょうか。私共のお世話しているケースで足腰が立たなくなつて施設に入ることがありますが、入るとそのうち元

気になられます。それは居宅で栄養状態を考えない食生活がなされているためではないでしょうか。



守尾 私のケースの中にこんな事例がありました。老夫婦二人ですが、この人達は生活保護基準に照らしても保護の要件を備えているため申請指導をするわけですが、頑として聞き入れない。それに被害者意識が強くて、隣近所との付合もない。人と話をする時にはいつも喧嘩です。昨年正月八日におじいちゃんが死んだという知らせがありました。死後三日も経っているのです。知らせてくれたのもおばあちゃんではなく他の人です。おばあちゃんは既に少々呆け気味で主人が死んだのも知らずに三日間ご飯を食べさせようとしていたのです。

私はもう少し早く何とかしてやれなかったのだろうか、家庭奉仕員のお世話でもできるものだったろうかと悩ましました。この夫婦は家の中にだれも入れませんでしたし、他人の情けには全く耳を傾

けようとはしませんでしたね。非常に悲惨な事例でした。

やはり至極当然なことだけれども、ホームヘルパー、民生委員、対象者が密に連絡をとり意思の疎通を図りながら心の通った福祉を実現していくことが大事であるということを改めて痛感いたしました。

重石 出稼ぎを強いられ、共働きが多くなり、鍵っ子が増えてきている現象があります。親と子供の心のふれあう時間が短くなってきているのも大きな問題です。親子夫婦の信頼に根ざす家庭というものが崩壊してきていますね。この社会現象が離婚を生み、母子世帯を作りだしているといえます。

家庭の崩壊

守尾 こういふ厳しい世の中になりますと、まず犠牲になるのは子供です。

それで今度は逆に、子供は大きくなると年老いた親をみない、仕送りをしないという現象も顕著です。家庭崩壊という心の荒廃を感じます。

最近、お年寄りが病氣されるとすぐ病院に入れるんですね。お年寄りというのは自宅で家族に見守られて療養するというのが一番なんでしょうけどね。

部長 福祉を重点施策として打ち出して

三年目なんです、我々ほどのような考えの下にそれを進めていったらいいかと

いうことですが。

◆これからの福祉の方向

在宅福祉の充実

西 身障者を対象に考えた場合、私は障害別、年齢別、性別と同時に重度優先という方向づけなければと思つておられます。一応会合に出られたり、外出される方は一応更生ができておられます。そうでなくて、もっと重度で外出もできず家の隅で泣いている身障者、これに対象とした福祉が充実することを望んでい

重石 従来から、社会福祉は施設中心でございましたね。これは、戦後今日までの福祉行政が当面の課題として必要に迫られたわけで、施設の整備は、今後進めなければなりませんし、その中にあつ



ては既に指導員や看護婦さん、調理師さんなど職員の方々が真心をもって入所者の処遇にあたっておられます。今後は職員に益々専門的な知識や高度の技術が要求されます。社協としまし

ても県と一体となって職員の待遇、研修に力を入れていまして、このような施設対策と併せて老人とか身障者で家におられる在宅の方々の福祉対策が極めて重要だと思ひます。

そのためには、年金増額、家庭奉仕員、介護人、ボランティア活動と申しますか、一般の篤志家の奉仕活動といったものが今後行政とマッチしながら進められていくことが非常に重要なことではないかと思ひます。

守尾 青少年問題ですが、年々非行年齢が低くなってきています。青少年を取りまく不良環境の整備と同時に、健全育成に対する施策をやつてもらいたい



▲熊本県身体障害者体育大会（於水前寺競技場）

すね。健全な遊び場、スポーツの場が少いんですね。

西 今までの福祉というものは、行政がやるもので我々はそれを受けるものという考えが強かったです。私は国民全体がその福祉活動の一員にならねばならんと思ひます。

暖い心の涵養

保田 公的扶助だけを福祉と思つておら

ある筈だし、行政官も政治家も世論の向うところに協力する態勢が要請されるわけである。

だのに、何もかも他者が準備してくれるのをぬくぬくと利用しようという魂胆が、地域福祉の充実も、家庭や個人の福祉の増進も阻害している。自ら福祉を開発していく心構え、福祉する心が住民全員に旺盛しなければならぬ。

特別養護 しらぬい荘園長
老人ホーム 水民 婦而子

近年わが国において、国民一般の老人問題に対する関心は著しく高くなり、老後の問題は高齢人口の増加や家族制度の近代化等多くの背景をもって社会問題としてクローズアップされて来た。それはこれまでの老人の私的扶養を公的扶養へと切りかえてゆく大きな契機ともなっている。

過去、老人の問題は貧困対策を主流として来たのであるが、今日では施設の近代化が叫ばれ、老人ホームに於てもその建築の上にも、その処遇の上にも、又職員の上にもそれが推進されて来た。近代化された設備建築の中にあつて、その老人処遇も、単に保護、援助する姿勢だけ

でなく、より進んだ生活開発をし、老人の持つ才能、能力等をどの様に生活の中に組み入れ、生甲斐として高めてゆくか研究されるべきである。この様な観点から、施設職員の資質向上が重要となり、熱意と研修意欲のある福祉職員の定着が望まれる。

又地域社会に於ては、人間としての連帯意識を深めると共に、施設にあっては、今までの閉鎖されたものでなく、地域の老人福祉センターとしての役割を果してゆくべきである。老人、家族はもとより、施設、地域、行政が一体となつてあることが、老人の福祉を充実することの出来る道ではあるまいか、老人福祉対策は、単に老境に入った人々に対する国家社会の配慮としてのみでなく、安定した老後を期待出来るものをつくらねばならない。血の通つた、心豊かな老人福祉が実現出来ることを願つてやまない。

保育所 シオン保育園長

坂本 克明

社会福祉の色々な分野の内、特に社会福祉施設は戦後いろいろな施設が造られ、一応整備されてきたのであつた。所がこの十年間、社会は急激に変化し、住民の要求も又非常に多様化してきてい